


<p>福島大学附属図書館報</p> <p>書 燈</p>		<p>No.27</p> <p>2001.10.1 発行</p> <p>〒960-1293 福島市金谷川1番地 TEL (024) 548-8083 http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/</p> <p>福島大学附属図書館</p>
------------------------------	--	---

本選びの勘

山口克彦

知的な活動に携わる人にとって、本を読むということは毎日の食事に相当するくらい日常的で大事なものではないかと思えます。それは理系・文系問わず、仕事か趣味かにも関わらず、生きていく上でごく自然に身についてくるライフスタイルのような気がします。本といっても研究対象になる専門的な書籍もあれば、通勤・通学あるいは夜寝る前に読む軽い小説もあり千差万別ですが、このようなものが渾然となって知的生活の血肉を形成していくのでしょうか。大学時代はこうした生活の第一歩かもしれません。書店に入っても受験時代のような束縛を受けることなく好きな本を眺めることができますし、大学の図書館にはそれぞれ古今東西の名著が揃っています。なんの制約もなく色々な分野に知的好奇心を発揮できる非常に恵まれた時間です。

さて魅力的な本に囲まれていても、さすがにこれらを全て読む時間はありません。膨大な書物から今の自分にあった、つまり気持ちが傾いたり、知りたいことが書いてあったり、もっと大事なことはインスピレーションが湧いたりする一冊を見つけるにはどうしたらよいでしょう。これには勘を養うしかありません。図書館は勘を掴むよい練習場です。まずは背表紙を見て何かピンときたら手にとってみることです。図書館であれば座って中身をゆっくりみることが可能です。求めているものと違うと感じたら、また別の一冊を取りにいきましょう。少し気に入ったら借り出して思い切って読み始めてみましょう。読んでいる内に、あるいは読み終わってからつまんなかったという本もたくさんあるでしょう。でもそれで少しだけ本選びの感性が磨かれます。また難しすぎてちっとも読めない本もあります。ときどきそんな本の中に、それでも良い本だと思えるものがで

てきます。それは表紙がよかったり、序文が気に入ったりしただけかもしれませんが。しかしそんな本を見つけたら大事にしましょう。できれば無理をしても書店にいったり買い求め、手元に置いておくことです。自分の本棚に少しずつでも、そんな本が増えていくのは大切なことです。

同じ要領で書店にも足を運びましょう。学生時代は金銭的にみて本を自由に買うことはなかなかできません。それでも月に何冊かは身銭を切って買ってみましょう。それだけ本の評価がシビアになって勘が身についてきます。欲しいのにどうしても買えない高価な本もあります。図書館で借りるのは次善の策ですが、そんなときにもいづれは自分の本で読もうぞという気持ちを忘れないで下さい。古本屋で気を取られる本を見つけたときには覚悟してください。今日を逃したらもう出会えない本かもしれません。しばらくは食生活が貧しくなるのをがまんすることにして手に入れてしましましょう。古本屋に限らず得てして本は一期一会だということも覚えておいて下さい。同じ本を眺められたとしても自分のアンテナにひっかかるには匂いというものがあるからです。

勘は一朝一夕には養えません。ですから学生時代に試行錯誤を繰り返しておきましょう。だんだんとよい本を見つけたと思える回数が増えてきます。そんな経験を積んでいくと、例えばまだ漠然としたアイデアを持っているときに何気なく立った書棚の中から、これぞという本が見つかることがあります。本の方が自分を待っていたのでは、という気持ちになるかもしれません。そうなればしめたものです。本の後ろ盾を得て、自分なりの世界観をどんどん構築できるようになります。諸君の知的生活に幸がありますように！

(教育学部助教授)

イギリス・バーミンガム大学図書館瞥見

飯島充男

バーミンガム大学はオックスフォードやケンブリッジのような“Ancient universities”ではありませんが、その次の画期に「大学」として格付けされた“Redbrick universities”(マンチェスター、リーズ等、産業革命を経て大学教育の必要性が大いに高まった工業都市に創設される)の一つで、私の滞在中の西暦2000年にエリザベス女王を迎え、100周年記念行事を行っています。学生数は約2万500人、うち外国人学生は3,300人、大学院生が6,000人近くもいます。研究スタッフも2,000人を大きく越えており、福島大学の7～8倍規模の総合大学といえます。

中央図書館は時計台を中心とする大学の中心施設の一画に位置し、経済学部と行政社会学部棟を合わせたくらいのスペースを持っているように感じました。他に「図書館 Library」と名の付くものは11もありますし、図書館と情報サービス部局(全学を統括するネットワークもここで管理)が一体化していて、スタッフ数は確かなことは判りません。しかし、年4回発行の立派な広報誌の他に、研究誌なども独自に刊行されていて、その数は50名を大きく越えているのではないかと推測されます。

以下、福島大学図書館との違いに留意しつつ、思いつくままに記述します。

- (1) 図書館の開館時間は、春、夏、秋学期期間中は、月曜から木曜までが8:30～22:30、金曜8:30～19:00、土曜9:00～17:00、日曜13:00～17:00となっていて、夜型人間の私としては大変助かった。クリスマス期には、例えば12月22日から1月2日等の期間は完全閉館、春夏冬休みの間は日曜日は閉館だが、それでも月曜から金曜までは9:00～19:00、土曜は10:00～13:00に開館しており、結構重宝した。
- (2) 開架図書館で、ともかくあちこちに座席を置いており、座席数が非常に多い。学期の終わり時期にはここがレポート作成の学生で埋まる。ただし夏休み等は閑散としている。
- (3) 新聞雑誌室には、*The Guardian*、*The Daily Telegraph*等のいわゆる高級紙が、日曜紙も含めてすべて備えられている。その月の新聞はまとめており、さかのぼって閲覧できる(福島大学でもそれは可能だが、一カ所に備えられてはいない)。整理

は良くなかったが、欧米主要紙の他、朝日新聞衛星版、台湾中央日報、中国人民日報などもある。

(4) 官庁統計類は2階のフロアに集中している。驚いたのはEUで纏めている統計が大変多かったこと。統計を共通にして比較尺度を同一にするのは容易なことではなく、EUの統合度が高いのをこんなところからも実感。EU統計、国連統計そして日本を含む諸外国の統計がイギリス政府統計と同じ基準で配架されており、国際比較が「当たり前」といった感覚は新鮮。充実の必要性を感じた。

(5) 図書館の利用案内が、政治、経済等20以上のテーマ毎に、また資料種類毎に、あるいは学部学生、大学院、生涯学習者等利用者別等に、多数置かれている。とくに検索方法の説明が丁寧で便利。

(6) 政府白書は、日本のように毎年刊行されるといったことはないためか、一般図書と同じ棚にばらばらに配架されている。その他機関の報告書類も一般図書と同じ扱い。分類記号は例えば〈GB342.S6〉等に何十冊とあり、大変探しにくい。ただしコンピューター検索は非常に容易。とくに福島大学に無い、「発行年での検索」は至便で、一つのテーマについての近年の調査・研究動向を手早く探っていく上で重宝した(<http://library.bham.ac.uk>参照)。

(7) 図書検索のための利用者用コンピューターは20台以上あった。またコピー機が、入口すぐ右手の大きな部屋に9台置かれており、カラーコピー機、グラフィック機能を備えたコンピューター、更にはカッター、はさみ等も置かれる。コピーは学生だけでなくスタッフも含め、すべてプリペイド・カードを使用する(各学部は基本的に独立採算性)。

(8) 貸出(借り出し)は、3ヶ月もの、1週間、一日、不可能、と4種類で、研究スタッフといえども自分の研究室に借り出し図書を長期に置き、私物のように扱うことはできない。複数冊購入の度合いも福島大学よりも少ない。貸出冊数に若干の格差はあったが、コピーなども含め全体として教職員、学生、院生を同等に扱うことが多いように思われた。

(9) 相互貸借は理由不明だが、大英図書館(British Library、British Museumから分枝)経由のみで、時間もかかり不便であった。(経済学部教授)

思い出の一冊

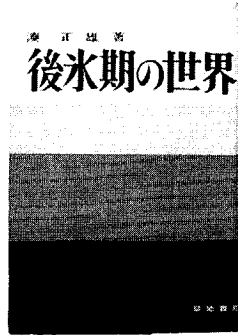
中馬 教允

「後氷期」、それは氷河期の存在を含意し、最後の氷河期に続く時代を指す言葉である。

世界的に著名な地質学者であり、北海道大学理学部教授であった故湊正雄氏は、1954年にこの書の初版を刊行された。私とその第三版を手にしたのは、大学三年生の時であったように記憶している。

フィンランドの海（バルト海）は土地を生み、フィンランドの領地が広がると歌う漁民の歌に始まるこの書は、「氷河期」の言葉は知ってもその具体像を知らない私に、消え去った氷河の影響と今なおかわりながら暮らす生活があることを教えてくれた。厚さ3,000mを越す氷に覆われた大地は、その重みでたわんだ。氷河が縮小し、融け去ると、今度は“重石”がはずれて、大地は高さを復元してきているのである。漁民たちは、祖父の代の港が陸化する様子を、海が土地を生むと表現したのであった。

そればかりではない。現在の世界の陸地に、海底に、動植物の世界に、氷河は実に大きな影響を及ぼ



していることを、この書は具体的な証拠と事例をもって語ってくれた。

マレー半島からボルネオ島にいたる海底に、氷河期の河川が延びて、両島に発する河川が現在の海の下で合流していた話、そこに河川が運び出したスズが品質の高い鉱床を形成している説明、高山の動植物や固有種が、本州や北海道の山にある理由などに関する記述である。

日本には山岳氷河が2つの時代に発達し、それが日高山地に確認される説明は、著者が研究仲間とともに、この急峻な山地を踏破して調べていったことを示している。

氷河時代が第四紀と呼ばれる最新の時代ばかりではなく、まだ陸地に生物が姿をあらわす前の時代から繰り返えしあったこと、その出現が大規模な地殻変動にかかわっていることなど、この書は、氷河時代到来の原因にまで言及している。

「現在は過去をとく鍵である」ことを具体的に示すこの書は、実証性、地理的・時間的スケールの大きさ、生活とのかかわりなどの点で、私を引きつけ、今なお忘れられない一冊になっている。

(行政社会学部教授)

図書館の活用法

— カウンターの内側から — 教育学研究科 坂本 敦史

図書館のカウンターで私がバイトを始め、早1年半になる。この間、多くの素材（ここでは、本のことをこう呼ぼう）の取引を扱ってきたが、そこで気づいたことを少し述べていくことにする。

どんな素材でもそうなのだが、素材を扱う際には、それ相応のコツがある。

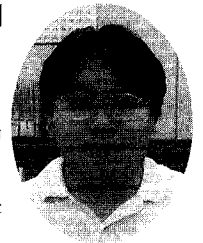
①注文をはっきり伝える…例えば、寿司屋で「白身を適当に」と言えば、気のきいた職人であれば、旬の物を出してくれるであろうが、図書館は、そうはいかない。自分が探している本が何なのか、どの分野のものなのか（その分野も一般的に括られているものとは違うことが多いので注意が必要）、をはっきり注文すると、的確な素材選びのアドバイスができるのである。

②旬の素材があるとは限らない…旬の物はおいしいし、売れる。そろそろ秋刀魚がおいしい時期である。だからといって、いつでも品揃えが豊富なわけでも、新鮮な物が揃っているとは限らない。図書館の素材も同じで、期末レポート・テストの時期はいわば旬であり、品薄な状態が続く。また、いつでも新鮮な素材（最新刊）があるとも限らないが、注文することもできる。旬を逃すとほとんど使われてい

ない素材も多く、旬をはずして利用すると、一夜漬けとはまた違った味わいがあるであろう。

③賞味期限は守る…今では「品質保持期限」というのであろうか？よく冷蔵庫の片隅で変わり果てた食料の姿を見ることがあるが、図書館の素材は幸いにして大抵の場合原型をとどめていることが多い。食べ終わってしまったものの賞味期限を気にすることはないが（私だけであろうか？）、食べないで残しておいたものが怖い。つまり、図書館の素材は、一度に多くを食べず、消化不良を起こさない程度がほどよい素材の味わい方であり、賞味期限を守るための方法であろう。また、どんな素材でも次の利用者があるかもしれないという配慮も必要である。

素材は、使う人の技量でおいしいものにも、苦痛なものにもなり得る。何気なく、必要に迫られて口に運ぶのも良いが、じっくり自分の目で吟味し、五感で味わうことも時として、優雅な時間となると思う。その時間の手助けを図書館のカウンター職人？がしてくれるであろう。



平成13年度大学図書館職員長期研修報告

学術情報係 白田真紀子

平成13年7月9日～7月27日までの3週間、東京とつくばにおいて行われた文部科学省および図書館情報大学共催の大学図書館職員長期研修を受講してきました。

講義要綱によると、この研修は、中堅職員に対し、学術情報に関する最新の知識を教授し、職員の資質と能力の向上を図ることにより、大学図書館の情報提供サービス体制を充実することを目的とする、となっています。

講義内容は、次のとおりです。

1. 大学図書館の管理・運営（8講義）
2. 大学改革と図書館（5講義）
3. 電子図書館的機能の整備とその推進（6講義）
4. 電子的資料の導入（4講義）
5. 国立情報学研究所の活動（3講義）
6. 多様化する情報サービス（8講義）
7. 社会の変容と大学図書館（4講義）
8. 共同研究討議（2課題）
9. 見学（6機関）

大学図書館はいま、二つの点で従来の図書館とは違った立場に置かれています。

一つは大学全体に関わることで、行政改革によりこれまでの国立大学から独立行政法人としての国立大学に変貌しようとしています。さらに「遠山プラン」と言われている国公私立大学あわせた中で、トップ30の大学を世界最高水準にするよう予算の重点配分が行われるということです。大学の個別化あるいは統合化・競争化が進められようとしているなかで、図書館もそれぞれの個別化あるいは統合化が進むに違いなく、効率的な運用とサービスの質の向上がこれまで以上に求められ、目に見えるような効果をあげることが必要とされています。

もう一つは社会の情報化・電子化が急速に普及し始めたことにあります。従来の紙を媒体にした図書や雑誌というものから、電子ジャーナルや電子出版といった電子化された形態での情報の提供に、図書館がどのように対応していくのかというのが大きな課題であります。

では、これからの大学図書館の姿を部分的ではありますが講義の中から取り上げてみましょう。

まず、サービス面ですが、紙媒体と電子媒体の混在は続くと思われませんが、電子資料への比重が大きくなることは間違いなさそうです。なにより、電子資料の速報性、遠隔利用、同時複数利用、改訂・編集の容易性といった長所は、利用者にとっては願ってもないこととなります。製本中で利用できない、欠号、紛失といった問題は起こり得ないのです。難点は電子資料が高額であることと、契約が中止されるとすべて無に帰してしまうという点です。これらについては、今後のコンソーシアムの動きや出版社の対応によって改善されることを願います。

このような電子図書館ともいうべき機能は、図書館からすれば脅威でもあります。なぜなら、図書館でなくてもこれらのサービスは利用できるからです。図書館としては、利用者の要求に合致した情報を、いかに付加価値をつけて、使いやすく提供することが重要になります。利用者に対する情報リテラシー教育もますます重きを置くこととなります。

次に機構面ですが、定員削減により職員数は減らされる一方です。そのなかで高度の専門性を要求される仕事をこなしつつ、従来のサービスも維持していかなければなりません。業務の見直しによっては、業務委託等も考えられます。その場合、専任職員の業務と委託する業務を明確に分ける必要があります。専任職員の中心業務としては、学術情報ナビゲーター的役割、選書・収書、企画・政策立案、渉外・広報・委員会があげられます。またさまざまな雇用形態に対応できるような管理組織を作ること必要とされ、さらに、専任職員と非専任職員それぞれに必要な能力に促した人材養成の仕組みも課題としてあげられます。

最後に、見学機関のなかで特に興味深かったのは、凸版印刷のVRシアターと国立国会図書館の工房のような資料保存課でした。凸版では、システィーナ礼拝堂の最後の審判や唐招提寺の伽藍を空中浮遊のような現実では不可能な角度で見ることが出来ます。土日には一般公開もしています。また国会図書館の総延長412kmもの書架をもつ新旧の巨大な書庫は、温度25℃湿度55%に保たれており、知識を後世に伝えるという責務を改めて感じさせてくれました。

合同研修会開かる

— 平成12年度東北地区大学図書館協議会合同研修会報告 —

7月16日の午後、本館が当番館となって、標記合同研修会が本学行政社会学部会議室で開かれました。当日は、猛暑にもかかわらず、東北各地の大学から大勢の参加者（25機関27名+本学職員）があり、スクリーンを用いて行われた下記講演を熱心に聴講いたしました。

講演①においては、国立国会図書館における電子図書館計画の全般が述べられました。そのうち、一次情報（資料そのもの）の電子的な提供の一つとして作業を進めている、明治期刊行図書約17万冊の電子化にかかわって、膨大な著作権処理の苦労話が紹介されました。

講演②においては、インターネット放送局としての図書館案内アニメーションの優越性と技法の実際が話され、図書館職員のメディアリテラシー能力の向上に役立ちました。



講演① 演題 「国立国会図書館における電子図書館の推進」

講師 国立国会図書館総務部企画課電子図書館推進室 副主査 参事 尾城孝一氏

講演② 演題 「効果的な図書館広報：インターネットアニメーションを中心に」

講師 跡見学園女子大学文学部 助教授 福田博同氏

(図書館専門員 渡邊武房)

運輸・交通・道路関係資料の書誌情報提供はじまる

— 今野源八郎蔵書の一部利用可能 —

このたび、本館が1997（平9）年5月に受贈した故今野源八郎先生旧蔵書のうち、いわゆる和資料について、そのデータベース化が完了し、書誌情報の提供をはじめました。これは、約1年前から、建設省（現国土交通省）福島工事事務所のご協力により、データ入力作業を進めていたもので、ひきつづきいわゆる洋資料の入力に取り組んでおり、来年秋には全資料の検索と利用が可能となる予定です。和資料の資料内容・内訳、利用方法等は下記のとおり。

記

資料内容：各種の運輸・交通・道路関係の審議会・委員会の席上配られた当局資料

中央・地方の各種の運輸・交通・道路関係の調査報告書など

資料内訳：いわゆる資料 7,408点 今野源八郎先生著作等 569点

パンフレット 374点 写真 5点

リーフレット 125点 ビデオテープ 3点

図面 565点 計 9,049点

利用方法：資料検索＝URL:<http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/>

閲覧・貸出＝本館利用規程による

(図書館専門員 渡邊武房)

ネットワークを利用した「資料購入依頼」 サービスを開始しました

総務係

6月下旬よりネットワークを利用した「資料購入依頼」サービスを開始しました。これは、資料購入を依頼する時には注文書で行っていましたが、学内ネットワークを利用して「資料購入依頼」が可能になり、研究室に居ながら資料購入依頼ができる大変便利なサービスです。利用対象は本学の教官のみです。

利用は、ネットワークにつながっているパソコンから図書館ホームページ「学内サービス」の「資料購入・文献複写依頼」を選択して、「利用者サービスメニュー」に入りその中の「資料購入依頼」を選び、利用者コード・パスワードを入力しOKボタンを押すと依頼内容入力画面になります。書名、出版社、ISBN、価格等の必要項目を記入し、OKボタンを押すと依頼完了です。（研究用と学生用では、記入のしかたが異なりますので注意して下さい。）なお資料購入依頼の確認は、「利用者サービスメニュー」の「各種依頼内容の確認」で、利用者コード・パスワードを入力して入って確認してください。

Fukushima Univ. Lib. - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 移動(M) お気に入り(O) ヘルプ(H)

戻る 進む 停止 更新 ホーム 検索 お気に入り 履歴 キャンセル 全画面表示 メール ヘルプ

アドレス http://www.lib.fukushima-u.ac.jp/

FUKUSHIMA UNIV. LIB. TOP PAGE Last Updated: 2001.7.27

資料購入依頼

研究用“重複 否”の場合は、メモ欄に“重複 否”と記入して下さい。無記入の場合は“重複 可”として扱います。
学生用として依頼する場合は、メモ欄に“学生用”と記入して下さい。無記入の場合は“研究用”として扱います。

書誌の書名、著者、出版社、ISBNを入力してください

利用者名 資料受入係

申込者ID

ISBN

書名

著者

巻冊次

出版社

出版年

価格

予算 本館参考を使用(申込者を変更した場合、申込者の予算を使用します)

メモ

単・継区分 単冊 継続

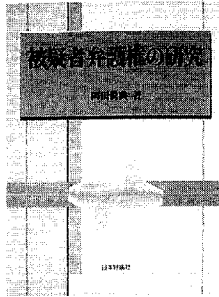
インターネット

学内教官著作寄贈図書紹介

『被疑者弁護権の研究』

日本評論社 2001.2

岡田 悦典 著 (行政社会学部助教授)



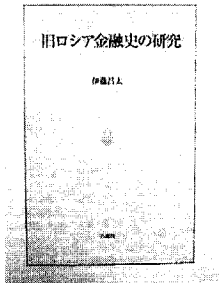
自分が刑事手続の被疑者・被告人として問われることを想像してみてください。事実を判断し、有罪であれば刑罰を決定し、人にそれを課すことは大変に重い手続ですし、皆さんにとって弁護人の存在がおそらく重要となるでしょう。本書は、弁護人の援助を受ける権利に関する諸問題とそれを支える制度について、歴史的沿革からその具体的理念など、様々な側面から考察を加えたものです。本書を通じて、弁護人の援助を受ける権利について理解を深め、ご意見・ご批判をいただければと思います。

.....

『旧ロシア金融史の研究』

東京 八朔社 2001.2

伊藤 昌太 著 (教育学部教授)



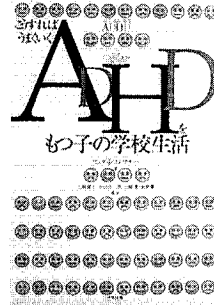
1991年のソ連崩壊は、ソ連時代・ロシア革命のみならず、それらに先行する旧ロシア時代に関しても再把握を迫っている。本書はそのような問題関心に基づいて、書き溜めてきた金融史に関する論文をもとにして、19世紀半ばから第一次世界大戦前夜に至る旧ロシア資本主義の構造的特質や資本主義世界での位置を明らかにしようとした。

資本輸入の全体構造、農業の抵当金融、独仏金融連関、金本位制、中央銀行とその政策、大戦前夜国際収支構造等を国際的連関を重視しつつ追究した。

『こうすればうまくいくADHDをもつ子の学校生活』

中央法規 2000.10

中田 洋二郎 監訳 (教育学部教授)



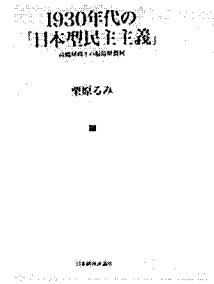
どの教室にも、落ち着かず、授業に集中できず、教室や遊びのルールを守らない子どもたちがいます。そういう問題の背景に、注意欠陥/多動性障害 (AD/HD) とよばれる発達上の障害があることが最近わかってきました。この本には、その障害をもつ子どもたちの問題行動をなくし、授業に参加させるための具体的な方法と実践例が豊富に紹介されています。紹介されるアイデアは、学級経営と一般の子どもたちの学習意欲を高めるためにも大いに役立ちます。

.....

『1930年代の「日本型民主主義」—高橋財政下の福島県農村—』

日本経済評論社 2001.2

栗原 るみ 著 (行政社会学部教授)



経済的衰退の中、国際環境、国・県の経済政策に制約・規定された村・部落の視点から、1930年代の恐慌対策再編の動きを追った。主に福島県伊達崎村長の日記を史料に、乗り越えるべき「日本型民主主義」という方法で、農村における合意形成過程を実証的に

に解明した。戦前の明示的な情報統制下、人々は「なぜ」との問いを禁止され、悲劇が生じた。今こそ、個人が自立し、時代の枠組み形成に参画できる、ジェンダー・フリーの新しい日本型民主主義形成を目指したいと考えたからである。

その他の学内教官著作寄贈図書リスト

書名	出版社	出版年	著者	請求記号	所在
21世紀の教師教育を考える	八朔社	2001.2	福島大学教育学部50周年記念著書刊行会	093.737/F84n	学内刊行物コーナー
福島大学教育学部附属小学校百二十周年記念誌	アート印刷	2001.2	創立百二十周年記念事業実行委員会	093.762/F84f	閉架図書 和8版

図書館では学内関係者の著作物を収集しております。
出版されました際には、ぜひ図書館にご恵贈くださるようお願いいたします。

図書館のパソコン利用について

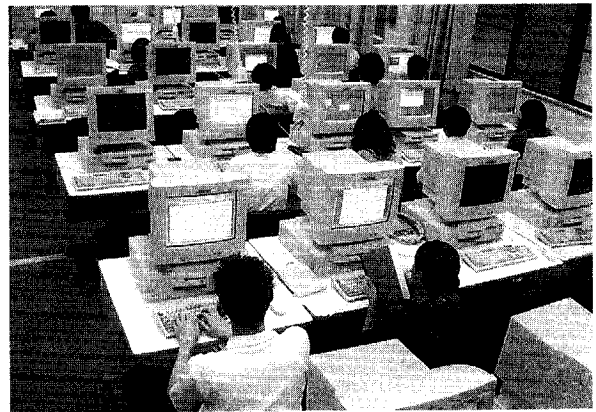
情報サービス係

マルチメディア室には情報処理センターから授業用として、パソコン30台が移設されています。授業のない時間は学習用パソコンとして自由に利用できますのでご利用下さい。

利用にあたっての注意事項は以下のとおりです。

- ① 利用時間は、図書館の開館時間から閉館30分前までです。
- ② 機器の不調・故障は、利用者本人が、情報処理センター事務室窓口（情報処理教育校舎1階）に届け、パソコンの電源は切らずにそのままの状態置いておいて下さい。
- ③ センター窓口終了後のトラブルは「事故届」に記入し翌日窓口へ届けること。
- ④ プリント用紙は各自で用意して下さい。

パソコンがフリーズすることが
あります。
安全のため時々セーブを!!



開架閲覧室CD-ROM用パソコン（5台）では、CD-ROM検索及びインターネットによる学術情報検索が利用できます。2階西側閲覧室の学習用パソコン（4台）ではレポート作成など、自由な利用ができます。なお、混んでいるときはマルチメディア室のパソコン（30台）を利用して下さい。

開架閲覧室にて飲食、及び携帯電話で通話しているケースがしばしば見られますが、閲覧室での飲食は禁止です。飲食物については持ちこまないでください。携帯電話の通話禁止はもちろんのこと、着信音等で他の利用者の迷惑にならないようにも注意して下さい。

目次

- ・ 本選びの勘……………山口克彦(1)
- ・ イギリス・バーミンガム大学
図書館瞥見……………飯島充男(2)
- ・ 思い出の一冊……………中馬教允(3)
- ・ 図書館の活用法
—カウンターの内側から—……………坂本敦史(3)
- ・ 平成13年度大学図書館職員
長期研修報告……………白田真紀子(4)
- ・ 合同研修会開かる……………渡邊武房(5)
- ・ 運輸・交通・道路関係資料の
書誌情報提供はじまる…渡邊武房(5)
- ・ ネットワークを利用した「資料購入依頼」
サービスを開始しました……………総務係(6)
- ・ 学内教官著作寄贈図書を紹介
「被疑者弁護権の研究」……………岡田悦典(7)
「こうすればうまくいく
ADHDをもつ子の学校生活」…中田洋二郎(7)
「旧ロシア金融史の研究」……………伊藤昌太(7)
「1930年代の日本型民主主義」……………栗原るみ(7)
その他の学内教官著作寄贈図書リスト……………(7)
- ・ 図書館のパソコン利用について…情報サービス係(8)